

令和5年度 病害虫発生予察 注意報 第7号

令和6年3月25日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 ベと病
- 2 対象作物 ネギ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

- (1) 3月18～19日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率ともに平年より高かった(図1)。

発生圃場率：75.0% (平年：11.3%、前年：0%)

平均発病株率：35.5% (平年：3.2%、前年：0%)

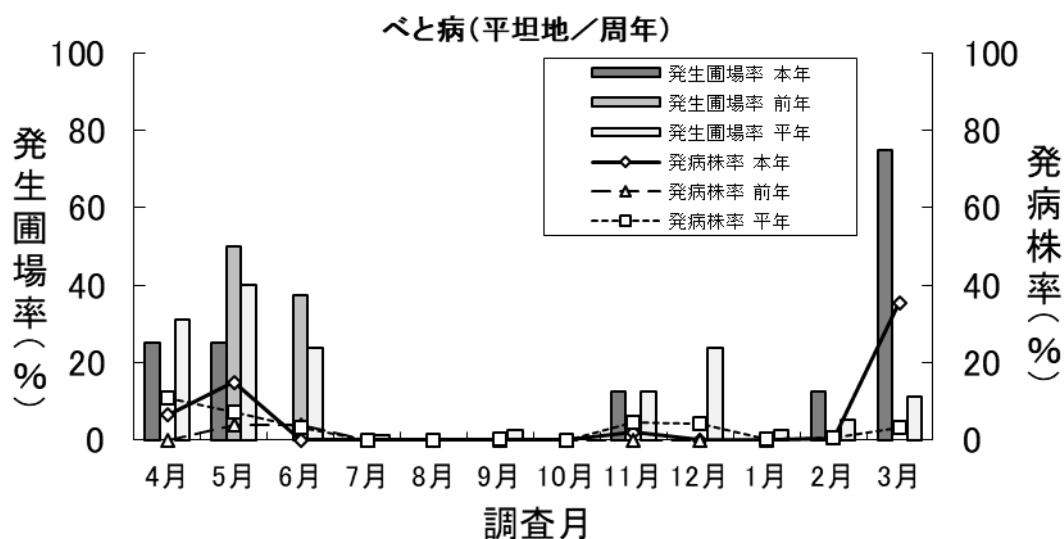


図1 病害虫発生予察巡回調査でのネギにおけるべと病の発生推移(平坦地)
(令和5年4月～令和6年3月)

- (2) 今年度は秋口から高温が続いており、本病の発生が平年より早まることが懸念されていた(令和5年度病害虫防除技術情報第6号)。12月以降も高温傾向が継続し、2月中旬から3月中旬にかけてまとまった降雨も観測されたことから、本病の発生が助長された。
- (3) 九州北部地方の1ヶ月予報(3月21日福岡管区气象台発表)では、平均気

温は、平年並 20%、高い確率 70%、降水量は、平年並 30%、多い確率 60%と予測されており、引き続き好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) 発生が認められていない圃場でも感染の可能性があり、発生に好適な気象条件（平均気温 13～20℃、降雨）が続くと急激にまん延するため、発病前の予防散布を行う。
- (2) 薬剤散布は、曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- (3) 薬剤散布の際は、展着剤を加用し、株元にもしっかりと散布する。
- (4) 多湿条件や多肥、肥料不足は発生を助長するので排水対策を施すとともに、適正な肥培管理に努める。
- (5) 使用薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/yasai.html>



病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>